



Table of Contents

Thanks	2
Conventions	3
How to Update	4
Equalizer	5
Epure	
FLUX User Interface	10
The Preset Management	13

1 Thanks

Thank you!

FLUX 社製品をご購入いただき有難うございます。

FLUX 社はハイエンドのオーディオ・プラグインを提供いたします。

Epure イコライザーは FLUX 社初の TDM 製品で、iLok オーソライゼーションが必要です。

TDM バージョンは TDM または RTAS として使用できます。

2 Conventions

全てのコントロール機能のスクリーンショットには機能の詳細に対応する番号がついています。
対応するコメントは斜体で表記されています。

3 How to Update

Updating products

最新版のプラグインをダウンロードし、登録していただく必要があります。

登録していただくと、登録した e メール・アドレスが製品リファレンスを使用して弊社ユーザー・ダウンロード・セッションにアクセスすることができるようになります。

製品リファレンスとは iLock.com の User id です。

ご使用の OS を選んでダウンロードし、Flux プラグインをインストールしてください。

Updating authorizations

iLok オーソライゼーションキーを御使用の場合は、www.iLok.comにて “ Download Licenses ” を選択しオーソライゼーションを行ってください。

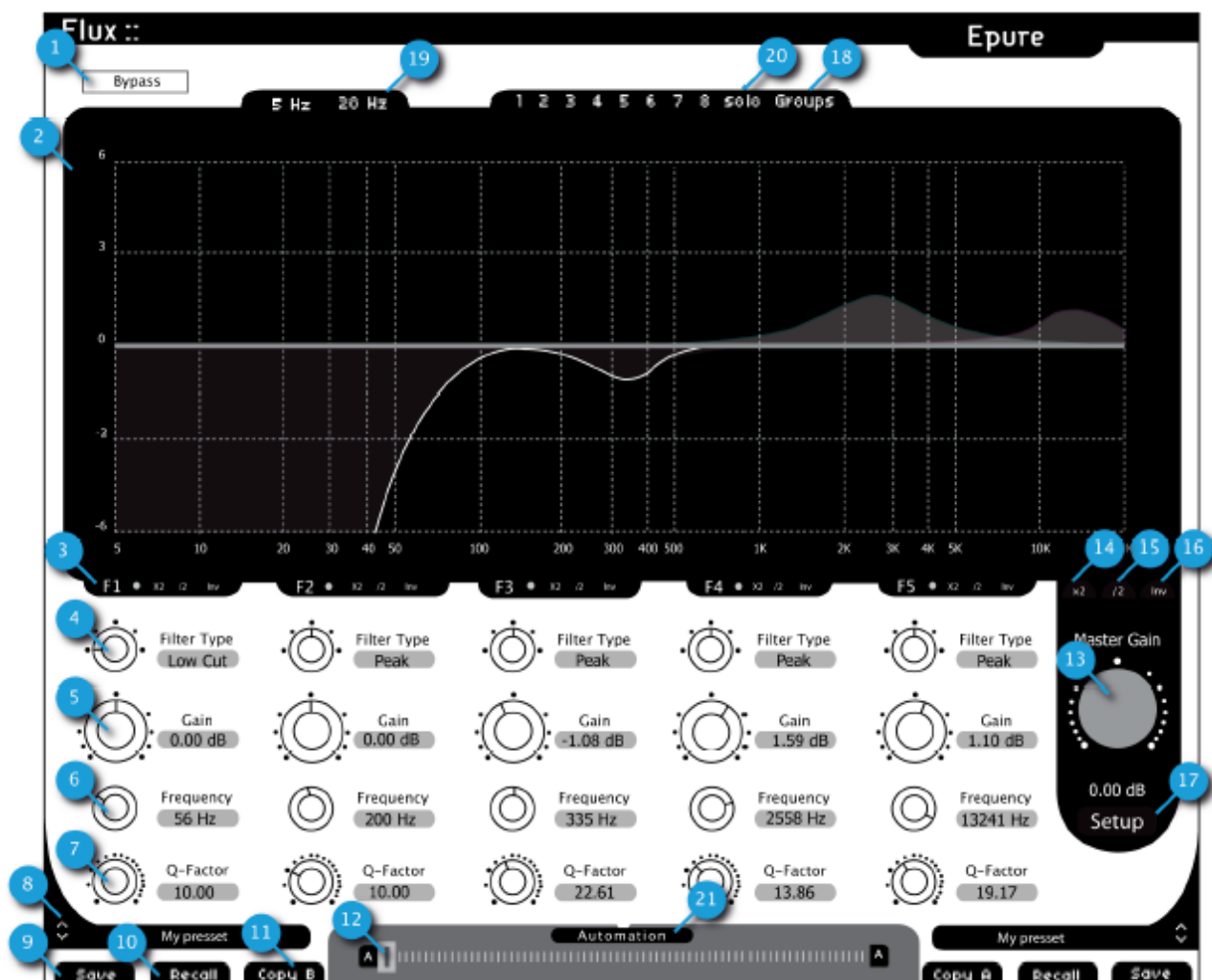
4 Equalizer

4.1 Epure

Epure は最高の SN 比を持った 5 バンドのイコライザーです。

通常のデジタル・フィルターとは異なり、ゲインを下げたときにも SN 比を悪化させません。

Epure はデジタルでの最高の音質を誇っています。



Epure は Flux::のオーディオ・プロセッシング製品を理論的に補います。5 バンドのイコライザーは全ての Flux 社製品に活力感を与えるための製品です。

Epureにはどのような設定においても最高のSN比を確保するためのState-Spaceインプリメンテーションが使用されています。通常、デジタルイコライザーでは、ゲインを下げることによりSN比が悪くなります。Epureのアルゴリズムはデジタルイコライザーがかつてなし得なかったクオリティを持っています。ユーザーインターフェースには素早く正確なオペレーションができるA/Bモーフィング・システムを採用しています。

Bypass (1)

デフォルト値: Off

入力そのまま出力されます。

Graphic Display (2)

グラフィックの編集はカーブ表示エリアでも行えます。

Band Activation (3)

デフォルト値: On

Filter Type (4)

デフォルト値: peak

- 12 dB per octave high pass filter
- Low shelving
- Parametric
- High shelving
- 12 dB per octave low pass filter

全てのバンドで変更できます。

Band Gain (5)

Unit: dB - 可変範囲: -24 / +24 - Step: 0.01

デフォルト値: 0 dB

選択したバンドのゲインを設定します。

Band Frequency (6)

Unit: Hz - 可変範囲: 5 / 22K

デフォルト値: 50 / 200 / 500 / 2000 - Step: variable

バンドの中心周波数を設定します。

Band Q-Factor (7)

可変範囲: 1 / 100- Step: 0.22

デフォルト値: 10

フィルタータイプがパラメトリックの場合、選択したバンドのQを設定します。

効果的なQは設定したゲインに関係します。表示された値はゲインがmax (24dB) の時のものです。

例 : ゲインが 6dB のとき、Q の max は 100 ではありません。Q の表示では 10 となります。

100 が最大値ですが、Q を最も狭くした場合は 1/7 オクターブとなり、最も広くした場合 6.67 オクターブとなります。

Preset Manager (8)

プリセットマネージャにアクセスします。Preset Managementの項を参照してください。

Save (9)

Recall (10)

Specific Functions:

Master Gain (13)

単位: dB - 可変範囲: -24 / +24 - Step: 0.01

デフォルト値: 0 dB

選択したチャンネル・グループのゲインを設定します。チャンネルの全てのグループはマスター・ゲインコントロールを持っています。1つのグループしか存在しないときは内部イコライザー・チャンネルのマスター・コントロールとして動作します。

X2 (14)

モーフィング・スライダーでの選択により、セクションAもしくはBのゲインをx2にします。セクションA (もしくはB) は設定値を変更され、モーフィング・スライダーは該当するセクションの100%の位置に移動します。

X1/2 (15)

モーフィング・スライダーでの選択により、セクションAもしくはBのゲインをx1/2にします。セクションA (もしくはB) は設定値を変更され、モーフィング・スライダーは該当するセクションの100%の位置に移動します。

Invert (16)

モーフィング・スライダーでの選択により、セクションAもしくはBのゲインを反転します。セクションA (もしくはB) は設定値を変更され、モーフィング・スライダーは該当するセクションの100%の位置に移動します。

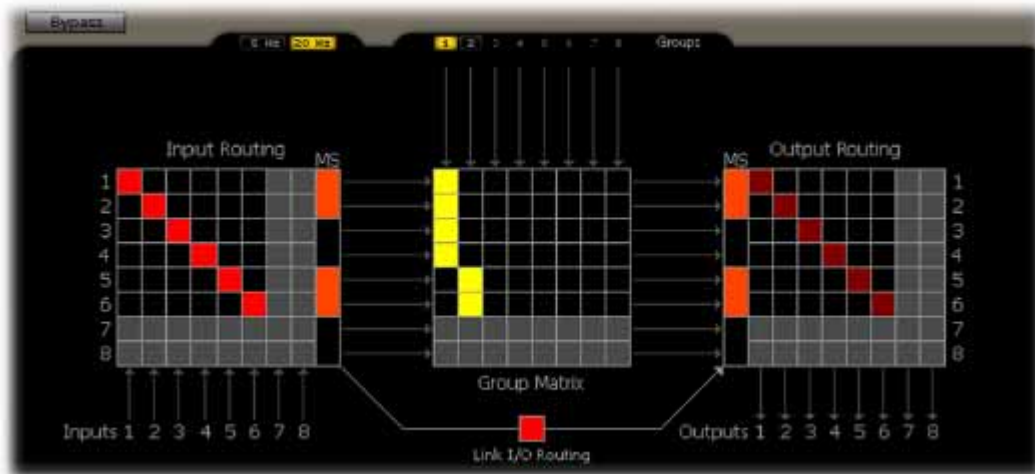
これらの機能は各々のバンドだけでなくマスターにも使用できます。マスターセクションに使用した場合は選択したチャンネル・グループの全てのゲインコントロールに影響します。マスターでの操作は特定のバンドの操作に連動させることもできます。

Setup (17)

このボタンによりセットアップ・パネルにアクセスすることができます。このパネルには、どの入力をどの内部 EQ チャンネルに接続するかを設定できる Input Routing があります。このルーティングは MS エンコード・セクションの後ろにあります。Group Matrix は特定のグループに該当する複数(Front/Surround...)の内部 EQ チャンネルに共通の設定です。イコライズすると全てのペアは MS デコードされます。Output Routing は内部 EQ チャンネル出力と Epure プラグイン出力のルーティングを行います。

チャンネル数がいくつであっても、8 グループまで組むことができます。つまり 1 つのチャンネルに 8 つまでの違ったイコライザーカーブをつくることができます。

Link I/O Routing が選択されていて、Input Routing の設定が正しく設定されているとき、全ての入力は対応する出力にルーティングされます。1 つの入力チャンネルが複数の EQ チャンネルにルートでき、複数の EQ チャンネルが 1 つの出力にルートできることに注意してください。矛盾したルーティングは Link I/O 機能の誤動作につながります。



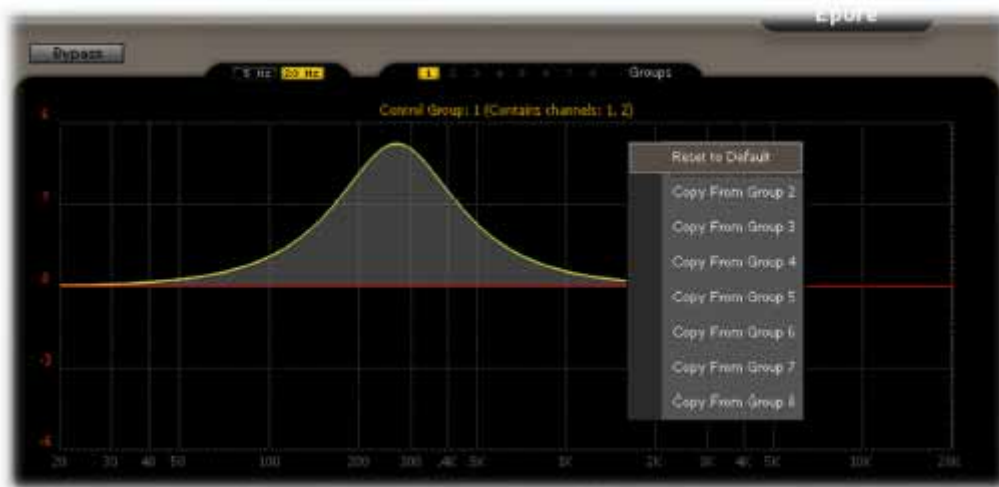
オーディオ・チャンネルがグループされているとき、最初のオーディオ・チャンネル(上図の場合、グループ2ではチャンネル5)の設定はそのグループにあるチャンネル(上図の場合チャンネル5と6)に適用されることに注意してください。

モーフィング機能によるプリセット間のモーフィングもこのセットアップ・セクションでの設定に適用されます。

MS エンコーダー/デコーダーは、奇数チャンネルが Mono に偶数チャンネルがサイドに割り当てられます。

Groups (18)

オーディオ・チャンネルのグループを選択するボタンです。EQ設定の全てがグループ化された内部チャンネルに適用されます。デフォルトではEpureプラグインが起動したときに作られた全てのチャンネルがGroup1になります。



表示部分を右クリックすると表示された別のグループから設定をコピーすることができます。

Lowest Frequency to display (19)

表示されている最も低い周波数を設定します。20Hzを調整している場合、20Hzから1/2サンプリングまでを表示します。

Copy A & Copy B (11)

セクションA（もしくはB）で設定したパラメーターを別のセクションB（もしくはA）にコピーします。モーフィング・スライダーはコピー先のセクションに100%となります。

Solo (20)

オンの時、選択したグループがモニターできます。モニター信号はマスターゲイン・セクションとMSデコーダーの後から取り出されます。

Automation (21)

デフォルト値: Off

オートメーション書き込み時にこのボタンがオンになっていると、モーフィング・スライダーの値のみが記録されます。他のパラメーターは記録されません。また、このボタンがオンになっていると、オートメーションがREADの時にモーフィング・スライダーのみが読み込まれます。

オフになっていると全てのパラメーターがオートメーションに書き込まれ、モーフィング・スライダーは無視されます。オートメーションがREADの時にこのボタンがオフになっていると、モーフィング・スライダー以外の全てのパラメーターはホストのオートメーションにコントロールされます。モーフィング・スライダーをコントロール・サーフェスに割り当てたい場合、オートメーションボタンはオンにしなければなりません。

5 FLUX User Interface

Knobs:

ツマミはマウスを横・縦に動かすと調整できます。

値はその表示部をダブルクリックして直接打ち込むこともできます。

Windows: Ctrl を押すとレベルとレンジは 6dB、スレッシュホールドは 3dB、周波数は 100Hz、レシオと Knee は 1dB で変化します。

MacOS: Option(Alt)キーを押すとレベルとレンジは 6dB、スレッシュホールドは 3dB、周波数は 100Hz、レシオと Knee は 1dB で変化します。

Windows: Ctrl と Shift キーを押すとパラメーターの微調整ができます。

MacOs: Apple(command)キーを押すとパラメーターの微調整ができます。

Windows MacOS: Shift キーでパラメーターを大きく変えることができます。

Sliders:

値はその表示部をダブルクリックして直接打ち込むこともできます。

Pop up menu:

Windows: 右クリックでコンテキスト・ポップアップ・メニューが表示されます。

MacOS: 右クリックもしくは Ctrl+クリックでコンテキスト・ポップアップ・メニューが表示されます。



TDM :

- Mac プラットフォームでは、Command + Option + Control + クリックでオートメーション・メニューをポップアップできます。
- PC プラットフォームでは、Control + Alt + Start + クリックでオートメーション・メニューをポップアップできます。
- Plug-in の Bypass と host Bypass は Pro Tools にリンクしています。

ディセブルにすると値の数字はダークグレイになります。

EQ-Curve

下記の方法により、EQ カーブ・グラフィック・ディスプレイからスイッチとつまみを設定することができます。

バンド・ハンドラーをクリックすると、そのバンドのゲインと周波数をコントロールできます。

右クリックでそのバンドの Q をコントロールできます。

バンド・ハンドラーをダブルクリックすると、ゲインをゼロにリセットします。

バンド・ハンドラーを右ダブルクリックすると、Q をデフォルトの値 (10) にリセットします。

Vertical scale:

グラフィック・ディスプレイの縦のスケールは、ゲインを上げ下げすることで自動的に変化します。

Display Meter:

表示されているメーターは、-16dBFS がリファレンスの VU メーターです。スケールの範囲は設定値を変更することにより自動的に変化します。

Bypass:

デフォルト値 : Off

入力信号がダイレクトに出力されます。

Preset Sections

A-B Sections

プラグインは A と B の 2 つのプリセットを持っています。セクションをクリックするとプリセット・マネージメント・ウィンドウに行けます。メイン・ディスプレイはプリセットのリストが表示され、この中からリコールもしくは保存したいプリセットを選択することができます。モーフィングを行いたい場合は、必ず 2 つの違うプリセットを選んで下さい。

Save

Save は選択したプリセットを現在の設定に書き換えます。使用しているプリセットを変更後に書き換えたくない場合は、空のプリセットリストをセレクトして新しい名前を入力し、Save をクリックしてください。

Recall

プリセットリストからプリセットを選ぶと、リコールボタンでセクション A または B のどちらにロードするかを決めなければなりません。プリセットはリコールされた後に動作します。

Copy A Copy B

セクション A (もしくは B) で設定したパラメーターを別のセクション B (もしくは A) にコピーします。モーフィング・スライダーはコピー先のセクションに 100% となります。

A/B Morphing Slider

このスライダーには、単位や値の表示がありません。このスライダーは 2 つの設定間をモーフィングします。スライダーの片方をダブルクリックすると、フルの A とフルの B を切り替えます。モーフィング途中の値は、新たなプリセットとして保存できます。

ロードされた 2 つのプリセットとグローバル・プリセット、モーフィング・スライダーの位置は、プリセット・マネージャー・ウィンドウに保存できます。

Automation

デフォルト値 : Off

オートメーション書き込み時にこのボタンがオンになっていると、モーフィング・スライダーの値のみが記録されます。他のパラメーターは記録されません。

また、このボタンがオンになっていると、オートメーションがREADの時にモーフィング・スライダーのみが読み込まれます。

オフになっていると全てのパラメーターがオートメーションに書き込まれ、モーフィング・スライダーは無視されます。

オートメーションがREADの時にこのボタンがオフになっていると、モーフィング・スライダー以外の全てのパラメーターはホストのオートメーションにコントロールされます。

モーフィング・スライダーをコントロール・サーフェスに割り当てたい場合、オートメーションボタンはオンにしなければなりません。

6 The Preset Management

From the Plug-in interface:

A-B Sections

プラグインは A と B の 2 つのプリセットを持っています。セクションをクリックするとプリセット・マネージメント・ウィンドウに行けます。メイン・ディスプレイはプリセットのリストが表示され、この中からリコールもしくは保存したいプリセットを選択することができます。モーフィングを行いたい場合は、必ず 2 つの違うプリセットを選んで下さい。

Save

Save は選択したプリセットを現在の設定に書き換えます。使用しているプリセットを変更後に書き換えたくない場合は、空のプリセットリストをセレクトして新しい名前を入力し、Save をクリックしてください。

Recall

プリセットリストからプリセットを選ぶと、リコールボタンでセクション A または B のどちらにロードするかを決めなければなりません。プリセットはリコールされた後に動作します。

リストの中のプリセット名をダブルクリックすると、選択したスロットにプリセットが呼び出されます。

AB Slider

このスライダーには、単位や値の表示がありません。このスライダーは 2 つの設定間をモーフィングします。スライダーの片方をダブルクリックすると、フルの A とフルの B を切り替えます。モーフィング途中の値は、新たなプリセットとして保存できます。

ロードされた 2 つのプリセットとグローバル・プリセット、モーフィング・スライダーの位置は、プリセット・マネージャー・ウィンドウに保存できます。

From the Preset Management Window:



プリセット・マネージメント・ウィンドウは 3 つのプリセット・バンクを備えています：

- Factory Bank はユーザーが変更できないプリセットです。
- User Bank はユーザーが使用できるプリセットです。

-
- Global Bank は A,B とモーフィング・セクションのために使用します。1つのグローバル・プリセットは A , B セクションとモーフィング・スライダーの位置情報が入っています。

プリセットは、リストの名前をダブルクリックすることで、モーフィング・スライダーで選んだセクションにリコールされます。

Recall A は、選択したプリセットをセクション A にリコールします。

Recall B は、選択したプリセットをセクション B にリコールします。

Copy A と **Copy B** ボタンは、プリセットを別のセクションにコピーします。

Update は、現在の設定を選択したプリセットに保存します。

New は、新しいプリセットをリストに作成します。

Duplicate は、選択したプリセットを新たにリスト内に作成します。

Edit は、プリセット名、詳細、キーワードの変更を行えるウィンドウにアクセスします。

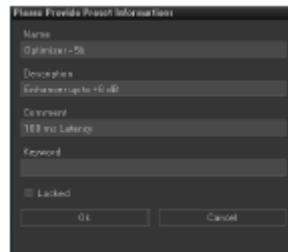
Delete は、選択したプリセットを消去します。

Export は、プリセット・バンクに含まれているファイルを作成します。

Import は、プリセット・バンクに既存のプリセットを加えます。

Ordering Arrows は、リスト内のプリセットの並びかえを行います。

選択したプリセットを Ctrl + クリックすると、リスト内に情報を加えることができます。



プリセット・プロテクションがオンになっていると、変更を行った人しか編集ができなくなります。複数のユーザーで使用する場合に自分のプリセットを保護することができます。プリセットはセッションの作成者にしか変更できません。それ以外のユーザーは、インポートすることと消去することのみが可能です。